Mountains GUNMA

2022 年 1 月 1 日

第 121 号

山岳ぐんま

群馬県山岳連盟

発行人：吉田直人 ／ 編集人：根井康雄

〒 371- 0031 前橋市下小出町 2-46-1（小池寛喜方） tel 027-235-9247 E-mail : tomoyoshikoike3810@gmail.com

タダパニよりヒマラヤの朝日を拝む
アンナプルナサウス (7219 m) とヒウンチュリ (6441 m)

top News

あけましておめでとうございます。

群馬県山岳連盟 会長 **吉田直人**

群馬県山岳連盟の会員並びに参与会員の皆様におかれましては清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より岳連運営や行事にご理解とご協力を頂き感謝申し上げます。昨年は、一年延期された東京オリンピック、パラリンピックが開催されオリンピックの新競技であるスポーツクライミングで日本の女子選手が銀メダル、銅メダルに輝きこの競技で最初のメダリストとして歴史にその名を刻む快挙を成し遂げたことは大変喜ばしいことと思います。

ただ残念なことにオリンピックの開会に合わせ、それを拒むかの如くコロナが暴れ出し、期間中全国で過去最高の新規感染者数が連日報道され、県内の警戒度はついに最高の 4 にまで引きあげられました。オリンピック、パラリンピックは無観客（一部の競技を除き）という異例の開催となり、三重国体も開催の僅か一カ

月前に中止の決断をせざるを得ない状況に追い込まれました。ヒトの人生まで狂わせるこのウイルスの恐ろしさをあらためて感じた夏でもありました。

人流抑制、黙食など聴き慣れない言葉も毎日のように耳にし、不要不急の外出、移動の自粛が求められ、月例の理事会は対面開催６回、書面開催も６回、定期総会も一昨年に続き書面となり懸案事項である名称変更と法人化は塩漬けのまま。重要議案であるが故にしっかりと書面ではなく、対面で同意を得るという考え方からやむを得ない措置と思っております。

三重国体中止に伴う延期（三重県開催）は無いとの発表もあり、７年後の 2029 年予定通り群馬国体が開催されます。７年なんてすぐに経ってしまいます。今年の国体は隣の栃木県で開催されます。多くの理事に視察に行ってもらい今や市民権を得ているスポーツクライミングの理解を更に深め群馬国体に向けて動き出す年にしたいと思います。場合によっては国体を担当する委員会を新設する必要があるかも知れません。

今年の干支は「寅」。虎のしっぽに見立てた虎ノ尾という植物があります、早池峰山に咲くナンブトラノオが有名ですね。花言葉は信頼、誠実だそうです。2022 年、群馬県山岳連盟が更に信頼される組織として、一人ひとりが誠実に物事に取り組み大きく飛躍する一年にしましょう。皆様にとって健康で実りある充実した寅年になりますよう祈念し年頭の挨拶と致します。

２年ぶりの救助訓練

遭難対策委員長　**町田幸男**

スケッドストレッチャーによる搬送

11月21日（日）、コロナ禍で中止していた救助訓練を２年ぶりに裏妙義のロックガーデンにて実施した。朝７時に妙義湖畔ボート小屋の駐車場に集合、口頭ではあるが隊員の健康状態とワクチン接種の有無について問診、全員接種終了で問題ないことを確認した。当初 10 名の参加予定であったが、沼田で不幸があったとのことで３名が急遽欠席となり独峰からの見学者１名を含め８名での訓練となった。装備を点検していると個人委員会の方々が何名か車で通り過ぎて行った。今日は籠沢から丁須ノ頭へ登るらしい。

紅葉真っただ中の山道を薄日がさす中、ロックガーデンへ向かう。今日はロープワークを主とした岩場での基本

技術の確認を行う。岩壁基部で全員ハーネスを装着し、約 20m 上のバンドへと向かう。リードによるスタティックロープの固定、セカンドによるフォローと 3 番手によるフィックスの再固定と確認。4 番手以降はフィックスを利用しての登攀、資機材の搬入といった現場への進入手順を確認した。続いてはバンドにフィックスロープを張り作業場の安全を確保した後、ウオーミングアップとしてシングルロープでの下降と途中停止、ユマールでの上り返しを全員で行った。まもなくして 10 名程度の団体が広場に上がってきた。挨拶をすると群馬労山の方々で、初心者のロープワーク訓練らしい。岩壁は必要ないとのことなのでガーデン入り口の緩斜面を使っていただくこととした。ウオームアップの後は滑車を使っての 1/4 引き上げシステムの確認を行った。行動範囲が限られる狭いバンドでの引き上げ作業には様々な工夫が必要である。引き上げロープの方向変更や、引き上げ途中に引き下ろしが生じた場合のロック解除システム、バックアップロープの操作などそれぞれ思い出しながらの訓練となった。

昼食後は搬送について確認を行った。いつもはレスキューハーネスによる背負い搬送を行っているが、今回は登山道での搬送にも有効なザックによる背負い搬送について、ザック、マット、雨具を使っての組み立て方法も含め確認した。

何回かの引き上げを行った後、ルート上のロープを回収し撤収した。撤収にあたっては隊員がどうすれば効率よくスピーディーに現場を離脱できるか、またフィックスした多数のロープをいかに効率よく回収するか学習した。近年は一ノ倉テールリッジのようなロングルートでの訓練を実施していないため、複数のフィックスロープの効率的な回収方法についてほとんどの隊員が理解していないようだった。

荷物をまとめ本日最後の訓練、スケッドストレッチャーによる搬送を行った。要救者には本日独峰より参加いただいた見学者に協力いただきストレッチャーに乗っていただいた。保温のための銀マットとエアマットを敷き、シュラフで梱包した状態で要救者をストレッチャーに乗せた。ガーデンからの下りはじめに一カ所崩壊箇所があり、ストレッチャーを手渡しで通過させた。最後の急斜面はアンカーのロープで立ち木を使用しての CCB（クリップコンティニュアスビレー、別名〇玉制動）で約 20m の斜面を一気に車道まで下ろし、車道を駐車場まで搬送して終了した。要救者から「暖かくて大変快適だった」との感想を頂いた。

装備を点検し、かたづけの後に反省会を行った。ほとんど全員から「久しぶりに行った訓練なのでところどころ忘れている。反復練習の大切さを改めて感じた」との感想が聞かれた。今回はコロナの影響もあってか、参加者が少なかった。今年度は 3 月に土合で雪上での訓練を予定している。新たなコロナ株の影響も心配ではあるが多くの隊員の参加をお願いする。

フィックスロープを登る隊員

4 分の 1 による引き上げ

ari.co

株式会社エーアールアイ
東京都練馬区上石神井 3-18-1
TEL 03-5991-4638

コラム［嶺（ne）　呂（ro）］3

尾瀬富士見小屋の風力発電

群馬県山岳連盟副会長　小林達也

1974年に始まった群馬県高体連登山専門部の「リーダー冬季講習会」、毎年3月下旬、春休み入りしてすぐに尾瀬戸倉スキー場と富士見峠周辺で行われてきたが、2015年秋、惜しまれながら富士見小屋が営業を終えたことにともない、2016年3月、富士見峠周辺での講習会は第42回をもって幕を閉じた。（43回から会場を移し、コロナ禍の中断はあったが、講習会は今も続いている）

富士小屋最後の営業日

一つの講習会が同じ場所で、しかも重大な事故もなく42年も続けられたこと（2011年は震災のため中止、実質は41回）は、奇跡と言っていいのではないだろうか。何より小屋の主、萩原始さんの理解と献身的な協力なしには続けられなかった。採算など度外視、経営する旅館を2晩も空けなければならないし、無理なお願いを何度も飲んで下さった。また、小屋では臨機応変、本当によく面倒を見て下さった。今もって感謝しかない。

記憶は月日とともに曖昧になったり、その一方で勘違いや思い込みで美化されてしまったりもする。もしかすると間違いがあるかもしれない。私は35年間、高校山岳部の顧問だったが、2年目の冬から退職するまで、32回、リーダー冬季講習会に参加した。登山専門部の常任委員になるとリーダー冬季講習会のコース調査も兼ねる「冬山指導者講習会」にも参加したので、通算すると60回ほど、雪に覆われた富士見小屋へ足を運んだことになる。辛いこともあったが、楽しい、懐かしい記憶の方が多い。

県山岳連盟からは八木原前会長や吉田会長、佐藤理事長をはじめ、多くの方々に講師として参加していただいた。亡くなられた方々では、田中成幸さん、山田昇さん、名塚秀二さん、星野龍史さんも講師を務めて下さった。「尾瀬からヒマラヤまで」、リーダー冬季講習会の標語のようになった言葉だが、いつ頃から言われ始めたのだろうか。悴田正也先生が委員長挨拶でよく口にされていた記憶があるので、講習会が始まって早々に登場したのだろう。講師の顔ぶれを見ただけでも確かに尾瀬からヒマラヤへの道筋があるようだ。

余談、田中さんが教えてくれた「群馬岳連方式」という雪洞の作り方を文登研でやったら、えらく感心され、得意になったことを覚えている。

部員達は富士見小屋に2泊する。講習会の2日目、6時半に富士見旅館を出発。3つのルートに分かれて富士見小屋を目指す。年々歳々、部員達も様変わりしていった。小屋への到着時刻を比較するだけでもわかる。パワーのある部員が多かった頃は先を競い合い、一番乗りの班は午前11時前後には到着していたが、それが午後1時前後になっていった。到着してすぐ

小屋入口の掘り出し作業

に入口の掘り出しと屋根の雪下ろし。冬季小屋のように２階の出入口はない。また、参加者が多い時、200 人以上が小屋へ出入りするには１階の引き戸を開けるしかない。約３メートル、多いときには４メートル掘り下げる。下へ行くほど圧雪され手強くなる。スコップ（シャベル）や雪鋸の使い方を知っている部員達の頃は約２～３時間だったが、小手先だけで扱うようになると辺りが薄暗くなっても開かず、やむなく２階の窓から女子部員を入れたこともあった。屋根の雪下ろしも仕事量が全く違った。効率が悪くなり、危険も伴うので止めてしまった。

顧問の楽しみは２晩目の「顧問ミーティング」。最盛期には２階の広間に２重、３重の車座になった。そして順次自己紹介。ここでは「高体連ルール」が幅を効かせる。つまり、人の話を「静聴」するというルール。自己紹介している時、話し声がすると「しーっ」「静聴」の声が掛かる。自己紹介が終わると質問タイム。蘊蓄を語ったり、道具談義をしたりしようものなら次々に突っ込みが入る。爆笑の連続だった。余談、八海山で大会を開いたとき、表敬訪問に見えた新潟県の委員長が顧問ミーティングに同席し、「これ、すごいですね、いいですねェ。」と感心しきりだった。布施正昭委員長時代からのルールのようだ。

冬山指導者講習会でのテント泊、雪洞泊も楽しかった。班長が質、量ともに不満が出ないように料理に工夫を凝らし、液体を用意する。参考になることが多かった。余談、やはり文登研でのこと。班の食糧計画に私の案が採用されたが、下山後、別の班の大学山岳部のリーダー３人がレシピを教えてくれとやって来た。講師から「聞いて参考にしろ。」と言われて来たという。貧粗な食事に講師が腹を立てたのだろうか。

雪に埋もれた富士見小屋

富士見小屋にまつわる私個人の思い出としては、2002 年、リーダー冬季講習会３０周年記念として小屋に寄贈した風力発電設備の設置に係わる記憶だ。現山岳連盟副理事長、高橋守男元委員長の発案から始まった。潤沢な資金があるはずもない。コンクリートや砂利、鉄筋の運搬は始さんにお願いしたと思うが、施工は自前だった。高さ約 10 メートルの鉄製支柱は前工山岳部顧問が機械科の実習教材という名目で調達、溶接、運び上げてくれた。何度か小屋に足を運んで約１立米の穴を掘り、型枠、鉄筋を組みコンクリートを流し込んだ。ミキサー車があるわけではない。スコップ、舟で練る。始さんのスピードに合わせるのが一苦労だった。確か 10 月、３日間泊まり込んで配線、アンカーボルトで支柱を固定し、先端に風力発電装置を取り付けてようやく終了。設置後も、冬入り前にプロペラを取り外し、春に再び取り付けるのが楽しみな仕事になった。期待通りの発電量は得られなかったが、屋根の上に吹く季節の風を受けて羽根が回る、それを見るのはうれしいものだった。

富士見小屋の風力発電装置

何故だろう、自分が委員長だった頃の記憶、風力発電設置ほどはっきりとは思い出せない。多くの人の力に支えられ、お気楽でいられたからなのだろう。

弱電工事承ります。
電話工事、ネットワーク工事及びセットアップ（LAN 及び Wi-Fi 環境）、
TV アンテナ及びケーブル工事
パソコンで悩んでいませんか？
ソフトの使い方はわかりませんが、ハードの悩みは相談してください。
（難しい故障の場合は外注となります。）

ミヤマネットワーク
代表　佐 藤 光 由
群馬県前橋市高花台 1-6-5
電話 027-269-1143　携帯 090-8842-2158

県民登山に参加して

自然保護委員会　**細野義法**

天狗山東峰先の展望

天狗山西岳でのお昼

「おはようございます。2グループ案内役の細野です」。「おはようございます」と心地良い声が返ってきました。参加者の体調の確認や下手なアイスブレーキング、軽い体操をしながら表情を見ると、今日は楽しい山行になりそうな予感。

県民登山参加は昨年に続き2回目、リーダーをさせていただくのも2回目の新参者です。昨年は、全グループをコースリーダーのリードのもと、私は、担当のグループの参加者に読図を中心に山行を楽しんでいただきました。

今回の担当となったBコースは参加者が多く、コースリーダーが1人でまとめていくのは困難なことがすぐにわかりました。私のグループは植物にすごく詳しい角田先輩がいて、ユーモアたっぷりに花や樹木の解説をしていただきました。ありがとうございました。私を含め全員が勉強になったと思います。

舞台は、50万年前ころから活動を開始したといわれる榛名火山の南側にできた天狗山。天狗山は、榛名山の初期の火山活動の際にできた外輪山の名残と言われています。天狗信仰があり、修験の山として知られ山中には数多くの石碑や石像があります。

まず、コースの概要を、地形図を使って沢地形から尾根を歩いていくことを説明しました。大鐘原ヶ岳では、コンパスを使っての山座同定の方法を確認しました。その後、信仰の山である証の多くの石碑を見ながら「なんて読むのだろう」「誰が作ったのだろうと」などと言いながら歩きました。

今回のメインの山頂である天狗山東峰先の展望の良いところに到着すると、写真で分かるとおり風もなく関東平野や長野県の山々、眼下に見える高崎方面の街並みを、堪能しました。

参加者の希望も聞きながら、お昼休憩をした西岳、赤や紫、黒など様々に色づいた草木の実を愛でながら、「辛い・しびれる」と言いながら山椒の味見をしたりしました。

鏡台山南峰では長野方面の展望を楽しみ、北峰からは、落葉した木々の間から榛名神社や集合場所の駐車場が見えました。コース中のすべてのピークも踏み満足していただけた山行になったと思います。

反省点としては、榛名山の歴史について予習していきましたが、あまり伝えることができませんでした。もう1つ、フィックスロープの張り方についてご指摘をいただきました。

後で思えば、持参した装備でもっと良い方法があったと考えられます。

今回、2回目のグループリーダーをさせていただきましたが、学ぶことが多くありました。以前、先輩から言われた「指導者が楽しくなければ、参加者はもっと楽しくない」という言葉を大切に、楽しく安全な登山のためにレベルアップできるように頑張りたいと思います。

岩登り体験報告

日時：2021 年 10 月 23 日［土］／場所：沼田市「川田ゲレンデ」　ジュニア委員会　**金子一美**

8：00　受付（集金　検温　健康調査票確認）

8：25　開会式

8：35　ゲレンデに歩いて移動

県道は車に気を付け一列で歩く。集落に入ってから自然観察や集落の産業や成り立ちを考えさせ、その後解説を行う。特に養蚕農家の造りを観察し、なぜ２階の屋根の上に小さな屋根 - 越屋根 - があるのかを考えさせた後解説を聞くが、子どもより保護者の方が興味をもって聞いていた。

＊集落の田畑は電柵で囲まれているが、なぜそうしてあるのかはよく理解していた。

＊集落の最上部で振り返って沼田市街を眺め、河岸段丘の地形を観察し、その成り立ちの解説を聞く。赤城山を確認し、各自の居住地域から見える形の違いを感じられた。

＊里山の樹木を観察し、解説を聞く。

9：20　ゲレンデ入口に到着

＊各自持参したヘルメットを着用し、ハーネスの装着方法を聞き、体形に合ったサイズを選んでスタッフや保護者が装着させる。装着後別のスタッフが再確認を行う

9：45　ゲレンデに移動

＊スタッフから岩登りの注意事項やビレイヤーとの声の掛け方を聞き、スタッフのデモンストレーションを見てから、班ごとに交代で岩登りを開始する。

＊６ルート設定したので、班で一通り登った後は自由にルートを選んで登らせた。

＊保護者の岩登り参加もあったので、親同士・親子・子ども同士でアドバイスし合う場面も見られるようになった。

＊どの子どもも積極的に行動していたが、中学生は一人だけの参加で初体験のため、消極的だった。年齢的に周りを気にしている様子で、その子への対応が難しいと感じた。

12：00　昼食

12：55　自然観察・解説

＊配布資料を見ながら、子持山からこの辺りまでの地形の成り立ちを解説。

＊保護者の方が興味深そうによく聞いていた。家に帰ってから振り返れるので資料があることはよい。

13：20　午後は北側の壁に変更して行う。

（自由にルートを選んで登る）

＊子どもだけでなく保護者も、飽きることなく何度も挑戦していた。

14：50　岩登り終了　閉会式（日山協の修了証とバッチを授与）

15：00　解散

（集合場所まで運転の保護者を送り届け、ゲレンデまで子どもを迎えるようにした。）

追　悼

日本山岳会群馬支部
前支部長 北原秀介さんを偲ぶ

日本山岳会群馬支部長　**根井康雄**

2021 年 10 月 4 日、日本山岳会群馬支部の前支部長・北原秀介さんがお亡くなりになられた。享年７１歳。あまりにも早いお別れだった。

北原さんは 1950（昭和 25）年、北海道上砂川町の生まれ。日本大学文理学部で地学を学んだ。吉村昭の『高熱隧道』や映画『黒部の太陽』に強く惹かれ、日大卒業後は鉄建建設に入社し、トンネル建設の現場で働いてきた「地質屋」「トンネル屋」だ。第一線を退いた後も、北海道新幹線の現場などに足を運び、後輩たちの支えになってきた。その仕事から完全に解放された矢先のがん宣告、そして抗がん剤治療の日々。そして、あまりにも早い別れ。まだまだ登りたい山もあったと思う。

日本山岳会入会は 1977 年。この年、マッターホルンに登り、90 年にはアイガー東山稜、そして 92（平成 4）年の日本山岳会・中国登山協会によるナムチャバルワ遠征隊にも参加している。リタイヤ後は山がきれいに見える場所で第２の人生を

若き日の北原秀介氏（前穂高東壁）

と、安中榛名駅前の分譲地の中でも妙義山が見える区画に自宅を建て、退職前に埼玉から越してきた。2013 年の支部創立と同時に群馬支部に所属。17 年、田中壯吉初代支部長を引き継ぎ、第２代支部長に就任し２期４年務められた。

肺にがんが見つかったのは 2020（令和 2）年春。そして肝臓にも極めて悪性度の高いがんが見つかる。それから１年半、北原さんの闘病生活が続いた。21 年７月の夏合宿には、上高地にある日本山岳会の宿舎まで来て、会員と交流したいという強い希望であったが、直前になって体調に自信がないとのことで、辞退された。それと前後して支部で活用してほしいと、登山装備を寄贈していただいたが、現役の装備類を私の車に積み込めないほどお預かりしてきた。小康状態だった体調がこのころから再び悪化してきたのだろうか。

ご逝去の 10 月４日といえば、群馬支部会員を中心に 20 数人が集まって開催された尾瀬合宿の翌日のこと。北原さんも毎年この合宿には参加され、２年前にはフルートの名演奏を披露し、芸術とは無縁（失礼）な山屋を魅了した。群馬支部の輪の中心にあって、いつもこれからの支部の発展を願っていた北原さん。今年も心の中で尾瀬合宿に参加し、会員の笑顔を見届けてから旅立っていかれたのだろうと思う。合掌。

群馬の山 4

菱町泉龍院から尾根周回コース 仙人ヶ岳

難易度 B ／体力度 3
泉龍院駐車場→一色展望台→小友沢の頭→前仙人分岐→仙人ヶ岳→前仙人ヶ岳→雨降山→寝釈迦→泉龍院駐車場
２万５千分の１地形図「大間々」「番場」

仙人ヶ岳は桐生市と栃木県足利市にまたがる県境の山である。上部まで植林されたスギやヒノキは、2014年の山林火災により前仙人ヶ岳からの稜線南面を中心に焼失したため、南方を中心に展望が開けている。山頂付近の稜線では多くのマンサクの花が春を告げる。白葉峠から山頂まで県境の尾根伝いに歩けるが、ここでは菱町の泉龍院から一色ハイキングコース経由で仙人ヶ岳へ、前仙人ヶ岳から雨降山へと下り泉龍院へ戻る尾根周回コースを紹介する。栃木県では栃木百名山に選定され、足利市の最高峰として小俣町の岩切登山口からよく登られている。

（左）前仙人ヶ岳（右）仙人ヶ岳

「群馬の山歩きベストガイド 安心して歩ける 126 コース」

定価 1400 円＋税
ISBN978-4-86352-249-7

群馬県山岳連盟と日本山岳会群馬支部、群馬県勤労者山岳連盟による群馬県山岳団体連絡協議会の編集で、上毛新聞社から発売中。お求めは岳連総務委員会へ。県内外の書店でも好評販売中。

後編記集

コロナ禍も収束したわけではないのですが、なんとなく楽観ムードに浸っていたところに、オミクロン株がいよいよ日本にも侵入してきました。そんな中、岳連の忘年会は２年ぶりの開催となりました。筆者が所属する日本山岳会恒例の晩餐会はこの年末も２年続けて中止となりましたが、群馬支部の新年例会は開催の予定です。新型コロナもこのまま終息に向かってほしいと切に願いますが、なかなかそうはいかないでしょう。それでも来年こそ良い年になりますように、赤城長七郎で願いを込めて初日の出を迎える予定です。（広報委員長・根井）

（有）山とスキーの店 石　井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町 3448-2
TEL 0270-21-8025　FAX 0270-21-8026

デザイン：寺澤事務所・工房